

福岡市における不燃ごみ量及び有価物回収量の推移

保健環境管理課 前田 茂行・望月 啓介・岡本 拓郎

第 39 回全国都市清掃研究・事例発表会

福岡市では、不燃ごみ（燃えないごみ、粗大ごみ）については、資源回収及び埋立地の延命を目的とし、資源化センターにて破碎選別処理を行い有価物（鉄、アルミ）の回収及びごみの減容・減量を図っている。第三次福岡市一般廃棄物処理基本計画（平成 16 年 12 月～）以降、各種のごみ減量施策及びその他社会的要因等により、不燃ごみ量は減少していたが、近年は増加の傾向となっている。この増減の要因等を組成調査結果及び有価物回収量から検討した。

搬入ごみ量に占める有価物の回収率は、鉄とアルミでは異なる推移となっている。アルミの回収率が 26 年度から増加しているのは、「福岡市廃棄物の減量及び適正処理等に関する条例」の一部改正にて、家庭ごみ及び資源物の持ち去り及び買い取り行為を禁止した施策効果によりアルミ缶の搬入が増えたものと考えられた。鉄については回収率が 23 年度から 25% で横ばいの推移となっているが、家庭系ごみの資源物の持ち去り以外にも、昨今問題となっている空き地での廃品回収、トラックでの廃品回収等、違法回収の影響があったと思われた。このような違法回収が増えた背景には、鉄スクラップ市場の影響が考えられた。資源化センターの回収鉄平均売却単価は、28 年度は 10 円/kg を下回る時期があったのに対し、搬入量が減少した 23~25 年度は、ほぼ 20 円/kg を上回っていた。さらに北京オリンピック景気と言われた 20 年度は 70 円/kg と一時的に高騰した時期もあった。このようなことから搬入ごみ量の増減は、行政施策だけでなく、他の要因の影響も受けられていると考えられた。